

私達の命と身体を守るために



消防本部救急隊



私達の町の救急隊

紫合の本署と北出張所を合わせて、町消防本部には44人の消防職員が勤務しています。消火活動や救助活動など、さまざまな消防の仕事の中で、救急活動に携



出動に備えストレッチャーなどの動作確認を行う救急隊員

9月9日は「救急の日」。救急業務への理解と認識を深めてもらおうと、9日を含む1週間を「救急医療週間」と定めています。今回は、猪名川町消防本部救急隊を訪ね、日常業務や救急出動の実態を取材し、社会問題となっている救急車の不適切利用などについてもお話をうかがいました。

救急車の適正利用を

救急車は本来、ケガや急病などで緊急に病院に搬送しなければならない人のためのものです。しかし、救急車でいったほうが早く診察してもらえる、あるいは車がないからなどの理由で救急車を要請する不適切な利用が増加しています。

町内でも、軽いかすり傷など緊急性の認められない症状での救急出動や、要請しておきながら救急車の到着後に搬送を断るといった事例が数多く報告されています。

緊急でない場合は、自家用車やタクシーを利用して病院へ行くようにし、普段から、かかりつけ医を持って早めに受診するようにしましょう。本当に救急車を必要としている命の危険がある人への対応の遅れを避けるため、救急車の適切な利用を心がけることが大切です。

救急出動の実態

救急車は、本署に1台と

わたるのが救急隊員です。町には救急隊員の資格を持つ隊員が15人、その中の9人は、さらに高度な医療を実施できる認定救急隊員の資格を持っています。救急隊員は、救急車内

平成20年1月から7月末までの救急出動は654件、1日平均3・07件となっています。搬送先は、7割以上が川西市内の病院で、救急の受け入れ環境は比較的恵まれています。また、傷病者が生命の危機にあると判断された場合は、県内の救急救急センターや特定の病院へ搬送しています。その他、山間部での事故

家庭でできる

簡単なケガの応急手当

いざという時に落ち着いて対処できるように、家庭でできる簡単な応急手当を教えてくださいました。処置後はなるべく早く病院で受診してください。



やけどのとき

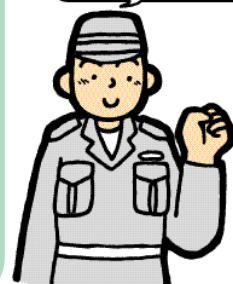
流水で冷やす。十分に冷やしたら、消毒ガーゼや、きれいな布を当て包帯をする。水ぶくれができた時は、破らないように保護する。

出血がひどいとき

きれいなガーゼやハンカチ・タオルなどを重ねて傷口に当て、その上を手で圧迫する。感染防止のため血液に直接触れないように、できるだけビニール手袋やビニール袋を使用する。



落ち着いて対応してください



骨折したとき

激しい痛みや腫れがあり、動かすことができないので、そえ木を当て、三角巾などで固定する。

夜間や休日の子どもの急病にもあわてずに

夜間や休日の子どもの突然の病気やけがは不安なものですが、落ち着いて次の窓口にご相談してみてください。

医療機関で受診した方が良いか知りたいとき

兵庫県小児救急医療電話相談 (078・731・8899)

受診可能な病院の情報を知りたいとき

消防本部 (766・0119)

夜間や休日の急病診療所

阪神北広域こども急病センター (所在地) 伊丹市、770・9988

豊能広域こども急病センター (所在地) 箕面市、729・1981



9月7日(日)「救急フェア」を開催します

昨年の「救急フェア」で、AEDの使用法を学ぶ参加者

AED(自動体外式除細動器)の正しい使用方法や心肺蘇生法を含む救命講習会、救急車の展示・写真撮影も実施されます。ぜひこの機会に急手当を体験してみませんか。

とき 9月7日(日)午前10時~午後2時30分
ところ ジャスコ猪名川店3階および西側駐車場
問合せ 消防本部救急担当(766-0119)

後編 記集

初めて消防本部にうかがいましたが、私達が取材している間に、救急隊の皆さんが数回出動されました。出動される隊員の皆さん

を間近で見て、そのすばい行動力に感心するとともに、たのしみさを感じました。いざという時、適切な処置や対応ができるように、私達も知識や技術を身につけておく必要があると思います。【いながわ特派員】